

昨今、テレビのニュースや新聞等でよく目にする引きこもりの件ですが、それによって巻き起こる事件が問題となっております。

マスコミによる報道により、ますます同等の事件が起こる事を懸念して、専門家の方々の意見を伺っています。問題は引きこもりが若い世代から高齢の方々まで日本中に10万人とも言われており、どのような対策を講じるか問われています。

しかしながら、何の対処法がないのが現実のようです。

最も恐れるのが、その引きこもりからによる、他人を巻き添えにする事件が起きているのが現実にある以上、地域の安全性や学校や園の周辺を含めての警備をどうするか？などの事件を防ぐ方法を議論しています。

そこで、私が思っている事を少し書かせて頂きます。

結論から言うと、引きこもりを治療したり、施設等で管理してもらおう事が出来ない事は承知の上です。

では、いったいどうすれば良いのか？

それはこれから引きこもりを一人でも作らない世の中作りであると考えています。

年々引きこもりが増えていけば、この先は減らして行く方法。慌てても非情に難しいので長い期間が必要と成ります。

30年以上、空手道の指導者をさせて頂き何千と言う生徒を預らせて頂いて来た経験や持論になりますが、第1に幼年、少年期に異常なる過保護による育て方、または兄弟の格差や、連れ子と自分の子供との差別から

による育て方によって感情が反発したりわがままに成長するものがあります。

第2に同じように小さい頃から、外に出さない人との接触をさせない。

確かに昨今は外で遊ばせる事を危険だから、感染するから等、温室で育てる親も見受けられ、差別化されている

子供はお金がかかると理由で習い事も行かせてもらえず。

子供の頃に何らかの好きな事をさせてあげたい。そしてそれが例え少しでも本人にとって自信を付けたり

特技になったりするものです。

輝かしい結果を残す事は一部に過ぎませんが、問題はそれだけではないのです。

これは、私がたまたま空手の指導者では有りますが、スポーツの競技でも同じだと思います。

学校生活だけで学ぶ事が不足している現代では、そこだけに頼る事が難しいのです。

そして共働きや片親の多い時代になっていますので、家庭でしつけをすることも同様に難しいと思います。

私は常々、空手を指導するときに子供達には厳しく、そして時には笑顔で接して誉めてあげたりを

心がけています。

何故なら、他人に迷惑をかけたり、人の話を聞かない、挨拶や返事が小さい等、これらに関しては徹底的に指導します。

また夏は暑く冬は寒く、稽古は痛みや辛い事がとても多く有りますが、それを共に乗り越えて行き精神修行を積み重ねて行きます。

自分が体験する痛みや辛さを身に染み込ませ、人への思いやりを育ませてこそ修行なのです。

また稽古によって発散したり、体力をつけます。

現代病で問題となっている熱中症も同じです。小さい頃から家の中でゲームやテレビざんまい。

エアコンの効いている室内ばかりで過ごしている生活が当たり前なので、自分自身で体温調節が出来ず、

自然治癒力も低下してきます。

これが、先ほどから伝えたように、心、技、体。

すなわち、病んだ心を持たせない、人よりも自信を持てる技、自然治癒力を身に付ける強い肉体。

私が指導して携わっている門下生は、どんなに暑かろうが寒かろうが道衣1枚です。組手でもそのレベルにあわせて稽古

するので少しずつ打たれても蹴られても耐えられるようになって行きます。

勉強だけが教育ではないと言う事です。

私の生徒には勉強は平均で良いと考えていますが、中にはトップレベルの生徒も多数居ます。

何故なら、稽古を通して集中力が身に付くからだだと思います。

そしてその中には、空手でも全国に出場したり、入賞者も輩出しています。

試合での勝敗や入賞なんて事は求められず、目標にしてる生徒には、それに見合った稽古のメニューを徹底しますが、

ほとんどの生徒は週に一回の稽古です。

その無理のない稽古を継続して、やがて高学年、多感になる中学や高校に進んで行きます。

その頃には家族や先生に対する感謝や、友達関係を大切にすることが身に付いて来ています。

親として子供の可能性を塞いだり、面倒な事から避けたり。または子供が嫌がる事を過保護にして

辞めさせる場合、引きこもりになる確率が高くなって行きました。

そうなった場合にまた（先生うちの子供をお願いします）と言って再度の相談が有りますが、その時にはもう子供が私の

所には行きたくないと言って、通う事も無理な場合がほとんどです。

ですので、親がいったんブレると、気づいた時には手を差しのべることが非情に困難になってしまいました。

私は自身の道場に来て欲しいとかは思ってません。

どうか幼い頃から、どんなスポーツでも武道でも結構ですので、家庭や学校だけで満たない事を、地元にある団体に見学

に行ったり体験することをお勧め致します。

家庭内での団らんしながらの会話もきっと増えると思います。

最後に、昨今のこの痛ましい事件がなくなる事を念頭に、私自信も微力ながら青少年育成に取り組んで参ります。



空手道 祐心会

一般社団法人

日本伝空手道陪勁流祐心会

会長…舟越祐浩

ホームページ

<http://yushinkai.biz/>

